

第3回 津久見市総合計画審議会 議事概要

※回答欄の「-」標記については、意見として承ったため、回答なし

第Ⅰ章 総合計画序論・第Ⅱ章 総合計画基本構想たき台（資料1-1、1-2）関係

質問・意見	回答
“地域の力”をつくっていくために、子どもへの教育として、津久見の歴史や地形、基幹産業を小学校・中学校・高校で学ぶ機会「津久見を磨くつくみ学」を行えば、津久見市への愛着や誇りが醸成され、将来子どもたちが津久見市内に戻ってくる結果に結びつく可能性が考えられる。またその試みをまち全体で盛り上げていく環境づくりが考えられる。	方向性について大いに賛同する。取組の可能性について、教育委員会とも調整の上、具体的に検討したい。
子どもの教育と育成が一番重要ではないかと考える。全国の中学校・高校では、生徒個人の主体性を重んじた自由な取組が行われているが、津久見市でもそのような子どもの興味を突き詰められる環境づくりを期待したい。	様々な分野で好成績を残している津久見市内の学生は多い。その長所を伸ばせる環境を整えられるように、教育委員会とも協働の上取り組みたい。

第Ⅳ章 総合計画総合計画（資料2-1, 2-2, 2-3, 3）関係

質問・意見	回答
津久見市の10年後の人口は1万800人と推計されており、そのうち半数以上が高齢者である一方で、現在の医療現場は全国的に大変な経営上の危機を迎えている。開業医の高齢化に伴う診療所の減少も医科・歯科問わず論じられるべきであり、津久見市内の病院におけるダウンサイ징も気になる点である。今後10年に向け、①医療・介護の連携強化、②医療人材の確保・育成、③高齢者の移動支援、④災害対策、⑤予防重視のまちづくりの5つがキーワードとなる。①については、地域医療の持続のためにも重要である。②については、学生の奨学金返済支援の仕組みも必要と考えられ、認定看護師などの制度が考慮されるべきである。医療はまちの経済を支える基盤であるため、考慮いただければと考える	—

<p>津久見市内ではいじめ、不登校などの問題について積極的に対処しており、また学力テストでも県内トップクラスの数字が出ているものの、市民アンケートでは、教育に対する満足度が低かった。この原因が何なのかを今後10年で考えていくべきである。</p>	
<p>観光振興の前提は地域の安心・安全や、地域で生活する市民の活力であるが、地域の防災・減災について、温暖化による豪雨対策・巨大地震による津波対策の具体的な施策が明記されていなかった。豪雨対策をはじめとした、新たな災害対策を市民に示す必要があると考える。巨大地震対策として、ハード面では備蓄、ソフト面では避難の具体的な施策をご検討いただきたい。</p>	
<p>今回の総合計画策定に係るポイントは人口減少の加速であるが、もう少し危機感を伴った表現を盛り込むべきと考える。具体的には税の徴収の減少や公共施設の硬直化、行政サービスの質・量の低下など、自治体経営の持続そのものに関する危機意識の共有を市民とともにに行うべきかと考える。それを踏まえ、財政指標など、大胆なKPIを盛り込むことも検討すべきと考える。</p>	
<p>コミュニティセンターとしての旧第二中学校の活用は重要であるため、ぜひ注力していただきたい。また、高齢化に伴い各種市民活動の情報発信に弱みがあり、様々な取り組みを行っても周知されないという課題もあるため、情報発信をサポートする体制についてもご検討いただきたい。</p>	
<p>商業の分野について、商店街の衰退は喫緊の課題である。その中で、新規創業や事業承継への支援も必要だが、全体としては、既存の事業者数をどれだけ維持できるかが課題と考える。したがってKPIには事業者数を含めると、全体の成果も見えやすくなるのではと考える。また、空き店舗の活用について、その活用件数もKPIに盛り込むことについてもご検討いただきたい。（</p>	

<p>耕作放棄地における倒木は喫緊の課題であるため、特に注力いただきたい。近年の気候変動の影響で、津久見市が蜜柑の栽培地として適さない可能性も考えられるため、これから市内の農産物のあり方についてもご検討いただきたい。</p>	
<p>「基幹産業の発展に加えて、新たな産業の可能性の検討を行います。」という文章について、もう少し具体的な表現を求める。高校生や若い世代の関心やニーズについて、共有を図りながら新たな基幹産業の方向性を考えいただきたい。また全体的に、行政の持つ情報を探査しながら、KPIを決めつつ、施策をもう一段階掘り下げ、期間を決めた行動計画まで議論できればよいと考える。</p>	
<p>就労環境の新規の取組として、移住定住のワンストップ窓口の設置とあるが、これはどのようなイメージか。移住の促進にも力を入れていくという方針か。</p>	<p>移住定住のワンストップ窓口については、就労支援の他、地域の概況のご案内など移住定住に関連した相談を一体的に行うことを想定し、各関係機関と検討している。</p>
<p>また地域コミュニティについて、集会所等の改修支援のみと新規施策が少ないが、大きな変更はないという理解で差し支えないか。</p>	<p>地域コミュニティについては、具体的な取組の文章化が難しかったが、地域ごとの特色に応じた様々な取組を展開したいと考えている。</p>

第V章 総合戦略たたき台(資料4-1,4-2,4-3)

関係

質問・意見	回答
総合計画・総合戦略では、Well-Being指標の活用を策定方針としていると理解しているが、総合戦略では活用するのか。	今後、総合戦略の施策の内容に応じ、KPIの設定の段階で、Well-Being指標を活用する可能性も視野に入れる予定である。
総合戦略でもWell-Being指標を活用するという認識で差し支えないか。	差し支えない。
ふるさと教育について、10年以上フレスコ画教育を継続しているが、そのような新しい具体的な取組についても再度ご検討いただきたい。	—
PTAの立場としては、今の小学4～5年生の10歳前後の子ども達が、10年後にどの程度津久見市に残っているかを考えている。子どもたちが集まる場所の整備に注力していただきたい。図書館以外でも、そのような場があれば、土日に市外に出ることなく津久見市内で集まるのではないか。	—
津久見高校との連携も明記していただいているが、生徒が集まらないと何も始まらない。津久見高校に魅力はあるが、そのアピールが乏しいことが課題と言える。どこの高校に行くかだけではなく、誰と一緒に高校に行くかという論点も重要になってきている。子育て支援においては、子育て世帯が市外転出が多く、定住促進がポイントとなっている。さらに、特別な支援が必要な子どもたちも目の当たりにしているため、その分野にも注力いただきたい。	—
高齢者の移動について、団塊世代の運転免許返納時期が近付いているため、高齢者の交通手段の確保について注力いただきたい。市内を走る路線バスと乗り合いタクシーの運賃均一化は大変ありがたいが、時間帯について再検討していただきたい。	—
昨今、若い世代が起業をしても、津久見市内のマーケットがなく、市外のマーケットを求めて転出してしまうことには注目すべきである。軸足を津久見市に置けるような取組が必要ではないか。また、たたき台を見ると全体的に、Well-Beingに資する取組が欠けている印象がある。特に、つくみん公園において学び・スポーツ・交流というような多様な機能を提示することでより良い空間の創出につながり、Well-Being向上を図れるのではないかと考える。	—

人口ビジョン関係

質問・意見	回答
総合戦略の期間は2030年までだが、その間においてグラフの線の描き方に大きな差がないため、あまり気にしなくても良いのではないか。	大きな差はないが、基準となる数字の根拠を明示しておく必要性を考慮して議題に上げた次第である。